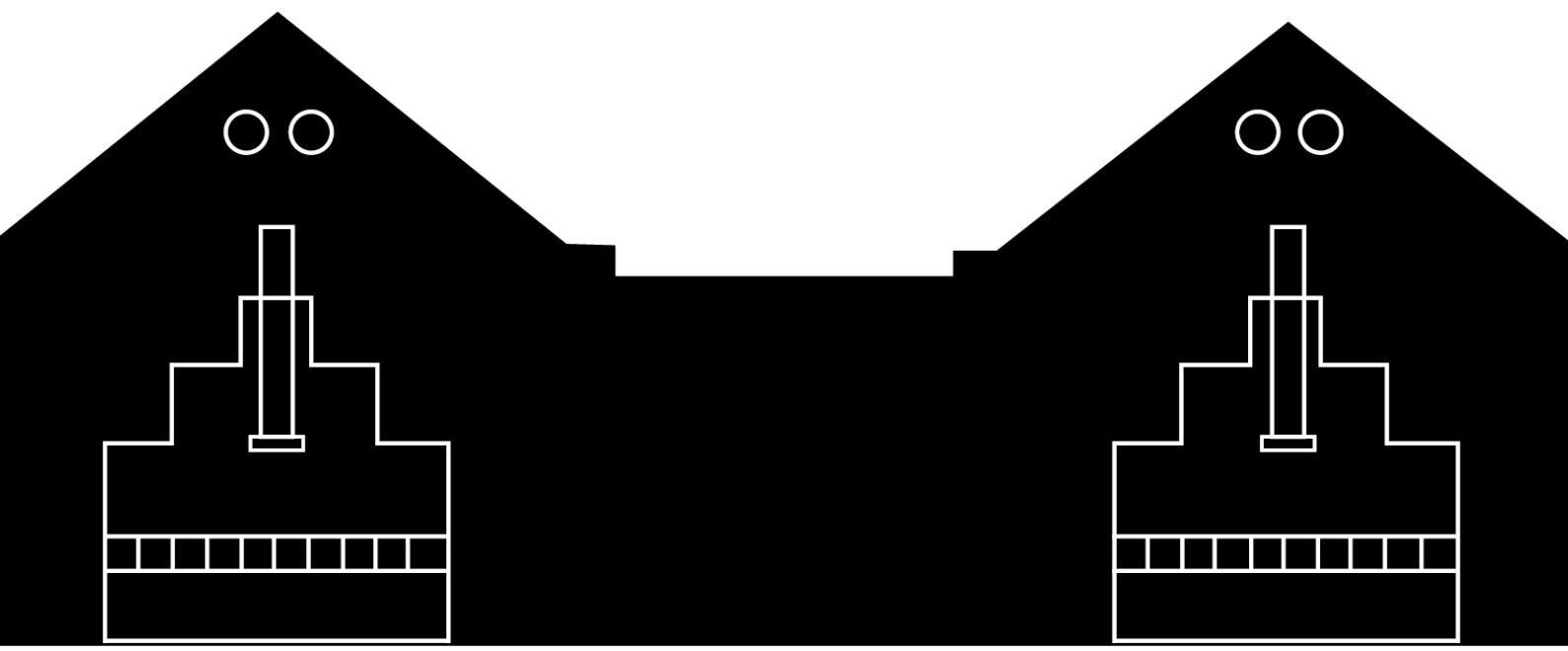

町田市考古資料室

「縄文のまちだ」

時代概要 解説 BOOK



目次

旧石器時代	-----	3
縄文時代	-----	4
弥生時代	-----	5
古墳時代	-----	6
奈良時代	-----	7
平安時代	-----	8
鎌倉時代	-----	9
室町時代	-----	10
町田デジタルミュージアムについて	-----	11

この冊子の内容は
「町田デジタルミュージアム」の
各時代概要ページをもとに
作成しています。



まちだ縄文キャラクター
まっくう

旧石器時代

現代人が属するホモ・サピエンスは約 20 万年前にアフリカに出現し、約 10 万年前から世界各地へ拡がり始め、日本列島に到達したのは約 4 万年前といわれています。

旧石器時代とは、土器が出現する 1 万 6 千年前以前ですが、日本においては約 3 万 8 千年前の石器が最古と考えられています。この時期は、最終氷期（ヴェルム氷期）にあたり、最も寒い約 2 万年前には現在と比べて年間平均気温が 7℃ほど低く、海水面も約 130m 低かったため、北海道は樺太島を経てユーラシア大陸とつながっていました。町田市域では木曾森野遺跡から発見された約 3 万年前の石刃が最古の石器となります。



旧石器時代の日本列島は火山活動が活発で、南関東では主に富士箱根火山帯からの火山灰が降り積もって関東ローム層を形成し、酸性が強いこの地層でも消滅しない石器、礫（れき）が旧石器時代を探る手がかりとなります。

人々は狩猟・採集をしながら移動する生活を送り、テントのような簡易な住居に住んでいたのでしょう。住居跡と推定されるものは田名向原遺跡（神奈川県相模原市）から発見された住居状遺構など全国でも数例しかありません。市域では住居跡は発見されておらず、屋外調理施設と考えられる礫群、石器を製作する過程で生じた剥片（はくへん）などが集中するブロックが発見されています。

町田市最古の石器

石刃 木曾森野遺跡出土

市域の代表的な遺跡は、武蔵岡、相原坂下、忠生、木曾森野、高ヶ坂南遺跡など境川流域にまとまっており、この他には鶴見川流域の向遺跡、恩田川流域のなすな原遺跡などがあげられます。代表的な出土遺物ではナイフ形石器、尖頭器、細石刃などがあり、これらの材料として遠隔地でしか産出しない黒曜石がすでに大量に搬入されていました。

縄文時代

約 16,000 年前から 2,400 年前まで続いた狩猟採集の時代で、土器と弓矢の使用が始まり、定住化が普及しました。縄文時代は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の 6 つの時期に区分されています。

草創期は、まだ最終氷期のなかですが、気温は徐々に温暖化していきます。土器の発明によって煮炊きが可能となり、食糧事情は大きく改善しましたが、移動性が高い生活をしてきたため、市域では住居跡は見つかっていません。

早期が始まる約 11,500 年前には最終氷期が終わり、現代と似た温暖な気候となります。市域では日影山遺跡で 20 軒以上の竪穴住居跡が発見されるなど定住が始まります。

前期は約 7,000 年前から始まり、気候の温暖化によって約 6,000 年前には現在より年間平均気温は 2℃ 高く、海水面も 4 m 上昇し（縄文海進）、東京湾が横浜市緑区付近まで入り込んで町田市に最も海が近づきました。本町田遺跡はこの時期を代表する集落です。

約 5,500 年前から始まる中期は、縄文時代が最も栄えた時期で、遺跡数が大幅に増加し、人口がピークに達します。中央の広場を囲むように住居が配置された環状集落が発達し、特に 147 軒の住居跡が発見された忠生遺跡 A 地区は関東を代表する大集落として知られています。土器では勝坂式土器に代表されるように立体的な装飾が発達し、土偶、石棒など祭祀に関するものも多くつくられました。中期の終わりごろには床面に石を敷いた敷石住居が出現します。

後期が始まる約 4,400 年前から気候が寒冷化し、その影響などから遺跡数が減少し、集落の規模も小さくなります。集団墓地やストーンサークルなど祭祀に関連する遺構が多くつくられ、異形台付土器のように特殊な用途の土器も出現します。

約 3200～2400 年前の晩期は、関東地方ではさらに遺跡数が減少するなかで、なすな原遺跡からは 15 軒の住居からなる集落が発見されました。遺跡からは関東をはじめ東北、北陸、東海、中部など全国各地の土器が発見され、周辺における文化・物流の中心的なムラであったと考えられます。



忠生遺跡の発掘調査風景



田端環状積石遺構



縄文時代の代表的な資料

中空土偶頭部 田端東遺跡出土

弥生時代

水田稲作と金属器の使用が始まった弥生時代は、九州北部において紀元前10世紀後半から始まりますが、その開始時期は日本各地で地域差があり、関東地方では紀元前2世紀ぐらいになります。土器の型式から前期、中期、後期に区分されますが、南関東において水田稲作が開始するのは中期中頃からの可能性が高く、それまではアワ、ヒエなどの雑穀栽培が中心であったと考えられます。

市域では前期の住居跡はまだ発見されておらず、埋葬後に、骨だけを掘り出して土器に納め、再び埋めた「土器埋納土坑（再葬墓）」が綾部原遺跡などから見つかっています。

約2,000年前の中期後半になると遺跡数が急増し、本町田、梶山神社北、高ヶ坂丸山、多摩ニュータウンNo.938・No.939遺跡などがこの時期の代表的な集落です。鶴見川の中・下流では、集落を濠で囲んだ環濠集落が多く出現し、東雲寺上遺跡からも濠をもつ集落が発見されました。鶴見川流域では大規模な人口の流入によって下流から開発が進み、やがて最も上流の町田市にも集落がつくられるようになりました。また、この時代の遺物では東海地方の影響を受けた宮の台式土器が主体ですが、梶山神社北遺跡から中部地方系の小型台付甕が出土するなど多方面から人口の流入があったと推定されます。土器の形状では穀物の貯蔵に適した壺形土器が多くなり、金属器を模倣した磨製石鏃、大陸系の磨製石斧、鉄刀の一部などの金属器が登場します。遺構では古墳の祖型と考えられる方形周溝墓が造られるようになります。

後期になると遺跡は激減し、鶴川遺跡L地点、多摩ニュータウンNo.920、山崎西遺跡などで数軒の住居跡が発見されましたが、人口は大幅に減少したと考えられます。



復元された竪穴住居

本町田遺跡（右が弥生時代、左が縄文時代）

古墳時代

古墳時代とは、3世紀後半から7世紀末にかけて全国各地で地域の有力者のお墓として土を盛った墳丘がつくられた時代で、4世紀までを前期、5世紀を中期、6世紀を後期、7世紀を終末期と区分しています。弥生時代には、地域ごとに特徴的なお墓がつくられたのに対し、古墳時代になるとヤマト王権を中心とした政治体制が形成され、前方後円墳に代表される画一的なお墓が東北から九州にかけてつくられるようになりました。

町田市内で墳丘のある古墳は、能ヶ谷香山古墳群の円墳2基が唯一のものです。崖面に横穴を開けて埋葬施設とした、より簡易な構造である横穴墓は、7世紀に鶴見川、境川流域において多くつくられました。

市域で初めて集落が形成されたのは4世紀からで、境川流域の多摩ニュータウンNo.200やNo.916・917・219遺跡は、弥生時代からの伝統を引き継ぐ方形周溝墓を伴う集落です。5世紀になると遺跡数が激減し、集落跡は見つかっていません。6世紀になると再び遺跡数が増加して集落が形成されるようになり、武蔵岡遺跡、相原坂下遺跡がその代表です。この時期の竪穴住居は方形で、5世紀からは壁際に粘土などでカマドがつくられ始めました。カマドは縄文時代以降のイロリより熱効率が高く、煙は煙道を通じて屋外へ排出され、調理設備が壁際に固定されたことにより室内空間を効率的に使えるようになりました。カマドがある竪穴住居はその後も平安時代中頃まで存続します。煮炊きの道具もイロリの住居で使われた台付甕から、カマドの住居ではカマド穴に設置するために胴部が長い長胴甕が使われるようになり、生活の様子が大きく変化しました。



整備された西谷戸横穴墓群

奈良時代

奈良時代とは、都が平城京（奈良県）に置かれた和銅 3（710 年）から平安京（京都府）へ移る延暦 13（794）年までの約 80 年間をいいます。大宝元年（701 年）に大宝律令が完成して現在の刑法である律と行政組織や租税・労役を規定した令が整備されて以後、律令制度によって政治が行われました。

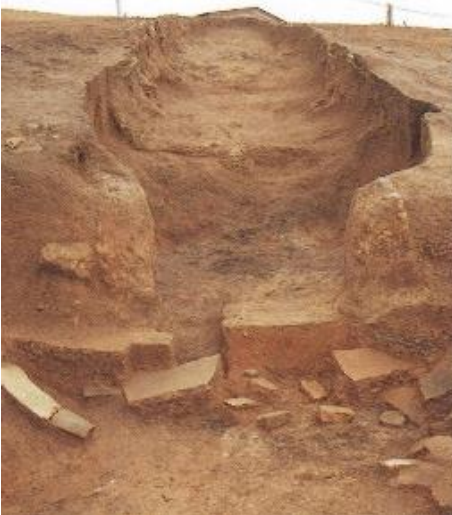
地方には国・評（郡）・里（郷）が置かれ、都から諸国へ派遣された国司が国府において統治を行いました。東京都が含まれる武蔵国では府中市に国府が形成され、町田市域の大半は国府がある多摩郡に含まれましたが、鶴間地域は都筑郡に、相原・小山地域は相模国に属していました。

都と地方の国府を結ぶ道路網（駅路）も整備されました。武蔵国は宝亀 2 年（771 年）にそれまでの東山道から東海道へ行政区分が変更されたことにより、相模国から武蔵国を経て下総国へ至る新たなルートが整備され、これに伴って駅路が町田市域を通過するようになったと推定されます。

天平 13（741）年、聖武天皇は仏教によって国家の安定を図るため、国分寺建立の詔を出し、諸国に国分寺、国分尼寺がつくられました。武蔵国では国府に近い国分寺市に国分寺、

国分尼寺が建立され、これらの寺院や国府の造営に使用される多量の須恵器や瓦を生産するために南多摩窯跡群（町田市・八王子市・日野市・多摩市・稲城市）が操業を開始し、多摩丘陵が本格的に開発されるきっかけとなりました。

このように中央の施策の影響のもと、市域の開発は進んだと考えられます。木曾森野遺跡（木曾東一丁目・森野四丁目）、すぐじ山・すぐじ山下遺跡（山崎町）では開拓を目的として計画的に設置されたと推定される集落跡が確認されました。また、三輪瓦窯址（三輪緑山三丁目）は隣接する川崎市麻生区の岡上廃寺跡や橘樹郡衙・影向寺（川崎市高津区）へ瓦を供給した窯跡と考えられます。



三輪瓦窯址

平安時代



集落跡の発掘調査の航空写真

忠生遺跡

延暦 13 (794) 年に桓武天皇が平安京へ都を移して以後、源頼朝が鎌倉に幕府を開くまでの約 400 年を平安時代といえます。

公地公民を原則とする奈良時代からの律令制度は、重い税から逃れるために逃亡や戸籍を偽る農民が増加したことで直接、徴税することが困難となり、9 世紀末になると受領と呼ばれる強い権限を持つ

国司が徴税を請け負うようになりました。地方の有力者は、受領から田地の経営と徴税を任せられることで次第に力をつけ、自衛と所領の拡大のために武装化し、武士団が形成されていきます。これらの有力者は開発領主と呼ばれ、所領にかかる税を逃れるため中央の権力者に所領を荘園として寄進し、自らは荘園を管理する荘官となって領有権の確保に努めました。このようにして寄進された荘園は、11 世紀から 12 世紀にかけて藤原氏北家による摂関政治や天皇から退いた上皇による院政を支える経済的基盤となりました。やがて源氏、平氏に代表される武士団は、皇族・貴族の争いである保元 (1156 年)・平治 (1159 年) の乱において武力を用いて決定的な役割を果たしたことから地位が急速に高まり、仁安 2 (1167 年) に平清盛が武士として初めて太政大臣となって政権の座につきました。

町田市域では忠生遺跡 A 地区の 10 世紀を中心とした市内最大の集落と、谷戸の開発と馬牧との関連が推測される川島谷遺跡群の 8～11 世紀の集落が代表的なものです。9 世紀から 10 世紀にかけて活発に操業した南多摩窯跡群のうち、八王子から町田にかけて広がる御殿山窯跡群に含まれる天沼窯では須恵器を、瓦尾根瓦窯跡では相模国分寺などへ供給する瓦を生産していました。

武蔵国は、皇室へ馬を供給する勅旨牧が 6 ヶ所設置されるなど馬の生産が盛んでした。町田市にも秩父平氏の出身である小山田氏や小野篁の子孫を名乗る横山党などが馬牧経営をもとに有力な武士団へと発展していきました。

鎌倉時代

平安時代末に栄華を極めた平氏は、文治元(1185)年、壇ノ浦の戦いで源氏によって滅ぼされました。同年、源頼朝は朝廷から全国に守護と地頭を置くことを認められ、建久3(1192)年には征夷大將軍に任命されて鎌倉幕府が成立し、鎌倉時代が始まります。13世紀初めに源氏の將軍が三代で途絶える一方、北条氏が台頭し、執権として幕府を主導する体制が確立します。承久2(1221)年、承久の乱で朝廷に圧勝した幕府は、全国に影響が及ぶようになりました。しかし、13世紀後半に中国の元が2度にわたって日本を侵攻した元寇の後、北条氏に権力が集中したため、他の武士に不満が広がりました。そのような中、後醍醐天皇の呼びかけに応じた足利尊氏・新田義貞らにより、元弘3(1333)年に鎌倉幕府は滅ぼされました。

武蔵国は、建永6(1207)年に二代執権北条義時の弟、時房が武蔵守に任命後、北条氏が支配するようになりました。町田市域では平安時代末から現在の大泉寺(下小山田町)付近を中心に小山田氏が広く市域を支配していましたが、元久2(1205)年、同じ秩父平氏一族である畠山重忠の乱に関連して衰退しました。また、市域北西の相原、小山地域は八王子市を本拠とする横山党の勢力下でしたが、建暦3(1213)年、和田合戦で和田義盛に味方して敗れ、没落しました。武蔵国の有力御家人を排除することで北条氏の支配はより強固になったと考えられます。

鎌倉時代にはいわゆる鎌倉街道と呼ばれる道路網が整備されました。市域には上道というルートが通っていたと推定され、古道の面影が残っている七国山付近は市の旧跡「伝鎌倉井戸」として指定されています。また、綾部原遺跡第I地点(野津田町)から13~14世紀代の遺構群(掘立柱建物跡・井戸跡など)が発見されました。



現在の「伝鎌倉井戸」

室町時代

鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇による「建武の親政」が始まりますが、これまでの慣習を無視した政策は武士の不満と社会の混乱を引き起こしました。後醍醐天皇に反旗をひるがえした足利尊氏は建武3（1336）年に光明天皇を擁して北朝を立て、暦応元（1338）年には征夷大將軍に任じられて室町幕府を開き、室町時代が始まります。一方、吉野へ逃れた後醍醐天皇は南朝を立てて動乱の時期となりますが、明德3（1392）年、三代將軍足利義満によって南北朝が統一されます。室町時代の後半は応仁の乱（1467～1478年）に始まる戦国時代となり、元龜4（1573）年、織田信長によって最後の將軍足利義昭が京都から追放され、室町幕府は消滅します。

関東では足利尊氏の子、基氏を鎌倉公方とし、上杉氏を関東管領として補佐させ、関東から東北を支配する鎌倉府が設置されました。しかし、歴代の鎌倉公方は京都の將軍と対立する傾向が強く、上杉氏内部の争いもあり、15世紀前半から戦乱の時代となります。16世紀初めには伊豆の北条氏が関東へ進出し、中頃には武蔵国の支配を確立しました。

町田市域では、建武2（1335）年、鎌倉幕府の再興を目指す北条時行が鎌倉へ進軍する途中で、足利尊氏の弟、直義と戦った井手の沢の戦いは、本町田の菅原神社周辺と伝わっています（東京都指定旧跡井出の沢古戦場）。建武3（1336）年、湊川の戦いで小山田氏の末裔とされる小山田高家が新田義貞の身代わりとなって討死しますが、明治21（1889）年、旧上小山田村などが合併したときに忠臣の出身地として忠生村と名づけられました。また、小山田1号遺跡（東京都指定史跡）や綾部原遺跡第Ⅱ地点（野津田町）からは15～16世紀の武士の館跡と推定されるものが発見されました。9万枚に及ぶ大量の銅銭が発見された能ヶ谷出土銭（市指定有形文化財）は、15世紀前半においてすでに貨幣経済が市域に広く浸透したことを物語ります。



現在の小山田1号遺跡



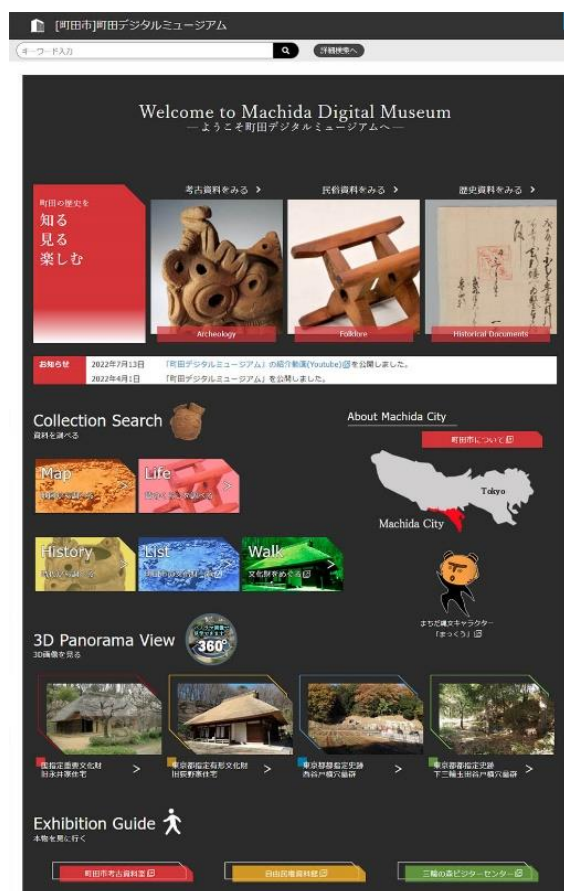
能ヶ谷出土銭

町田デジタルミュージアム

インターネットを通じて町田の歴史をわかりやすく紹介するデジタルアーカイブです。2000点以上の考古、歴史、民俗資料が掲載され、そのうち代表的なものは3Dを含む高精細画像でご覧いただけます。また、時代ごとの説明、年表に加え、地図からも史跡、遺跡を検索することができ、いつでも、どこでも町田の歴史をお楽しみいただけます。



サイトへはこちらから



トップページ

URL : <https://adeac.jp/machida-digital-museum/top/>

町田市考古資料室
「縄文のまちだ」時代概要 解説 BOOK

発行日 2023年1月

編集・発行 町田市教育委員会生涯学習総務課
〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22
電話 042-724-2554